

戸田市

子ども・子育て支援事業に関する ニーズ調査報告

I 調査の概要

1 調査票の種類と調査対象者等

図表 調査の実施方法

①調査票「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査（就学前児童用）」	
調査対象者	就学前児童を持つ保護者
調査件数	2,500件
調査内容	家庭等の子育て環境、保護者の就労状況、定期的な教育・保育事業の現状・利用意向、地域の子育て事業の現状・利用意向、育児休業の現状・利用意向に関する設問
②調査票「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査（小学生用）」	
調査対象者	小学校児童を持つ保護者
調査件数	1,500件
調査内容	家庭等の子育て環境、保護者の就労状況、放課後の過ごし方に対する希望に関する設問

2 調査の実施方法と配布・回収状況

(1) 調査時期と調査方法

調査時期：平成25年10月15日～10月31日

調査方法：郵送方式により調査票を配布・回収

(2) 調査の配布・回収状況

図表 調査票の配布・回収状況

調査対象者区分	就学前児童の保護者			小学校児童の保護者		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
市全域	2,500人	1,090人	43.6%	1,500人	659人	43.9%

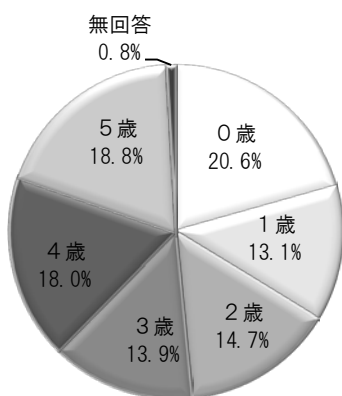
3 調査対象者の属性・家族状況

(1) 就学前児童の属性

年齢は、「0歳」(20.6%)が最も多く、次いで「5歳」(18.8%)、「4歳」(18.0%)となっています。

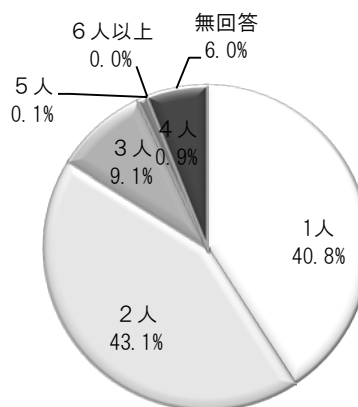
子どもの人数は、「2人」(43.1%)、1人(40.8%)となっています。

問2 年齢



就学前児童
n=1,090人

問3 子どもの人数



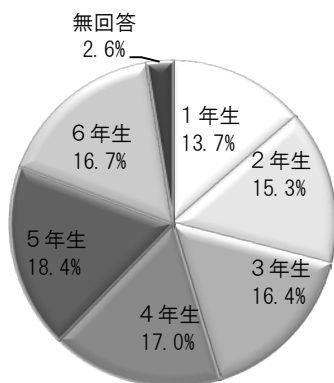
就学前児童
n=1,090人

(2) 小学校児童の属性

年齢は、「5年生」(18.4%)が最も多く、次いで「4年生」(17.0%)となっています。

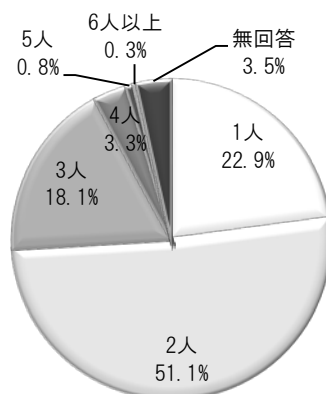
子どもの人数は、「2人」(51.1%)、「1人」(22.9%)となっています。

[問2] 年齢



小学校児童
n= 659人

[問3] 子どもの人数



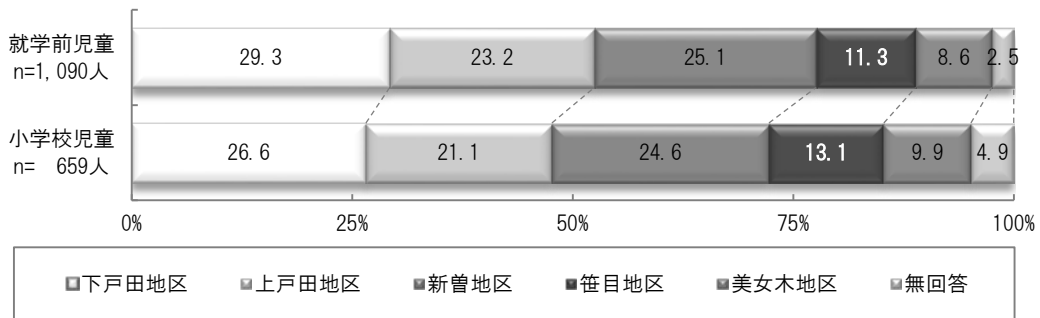
小学校児童
n= 659人

(3) 居住地区の状況

回答者が居住している地区は、就学前児童は「下戸田地区」が最も多く、次いで「上戸田地区」、「新曽地区」の順となっています。

小学校児童も同様に「下戸田地区」が最も多く、次いで「新曽地区」、「上戸田地区」の順となっています。

問1[問1] 地域（市全域）

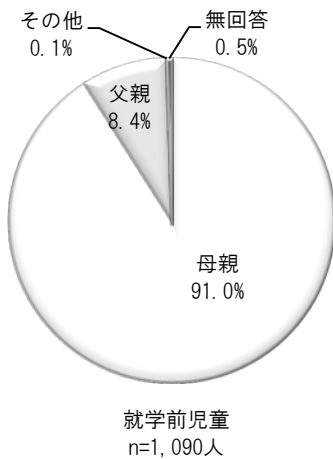


(4) 調査回答者の状況

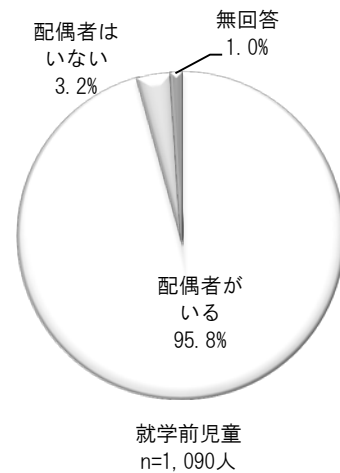
就学前児童、小学校児童ともに、調査回答者は母親が約9割となっています。

配偶者関係は就学前児童と小学校児童は約9割が「配偶者がいる」と回答しています。また、主な保育者は、就学前児童は「主に母親」が約5割で「父母ともに」よりやや多くなっています。小学校児童は「父母ともに」と「主に母親」がほぼ同数の割合となっています。

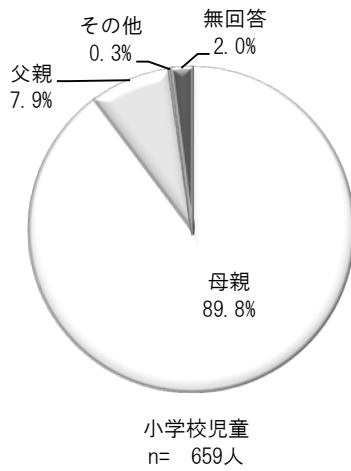
問4 調査回答者（就学前児童）



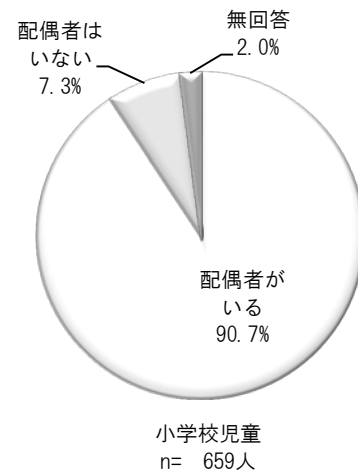
問5 配偶者関係（就学前児童）



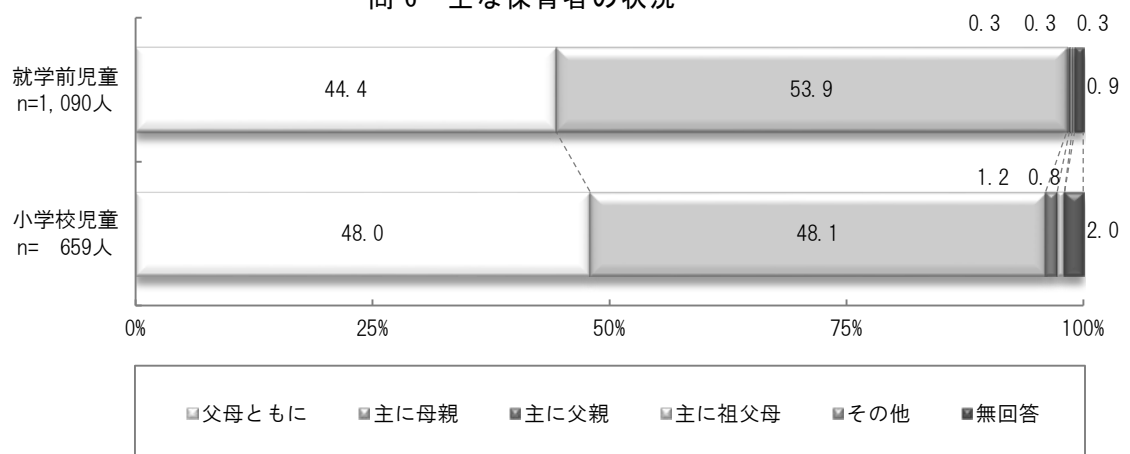
[問 4] 調査回答者（小学校児童）



[問 5] 配偶者関係（小学校児童）



問 6 主な保育者の状況

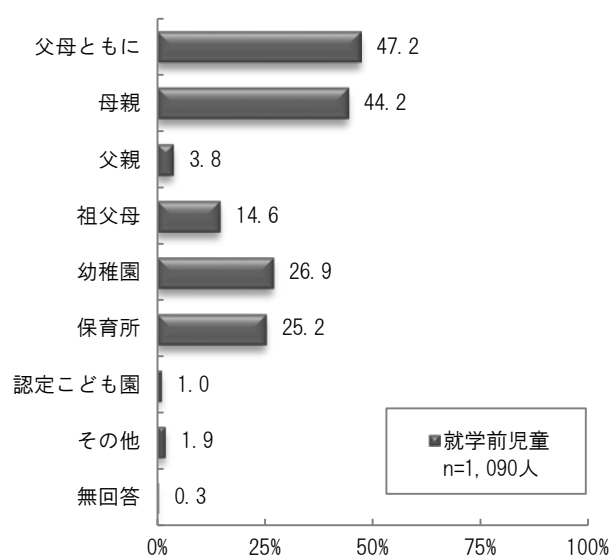


Ⅱ 調査結果

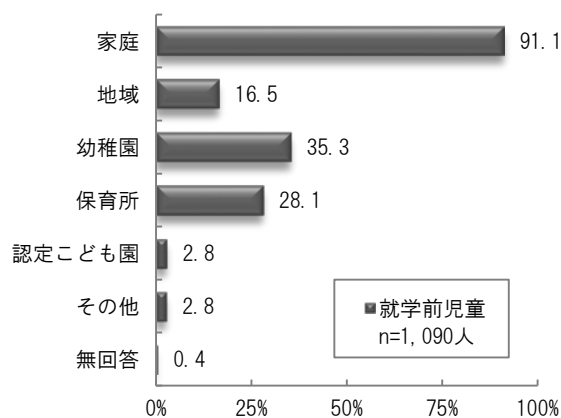
1 子育ての環境について

日常的に子育てに関わっている方（施設含む）は、「父母ともに」（47.2%）、「母親」（44.2%）、「幼稚園」（26.9%）、「保育所」（25.2%）の順に多くなっており、また、子育てに影響を与える環境は、「家庭」（91.1%）が最も多く、次いで「幼稚園」（35.3%）、「保育所」（28.1%）、「地域」（16.5%）の順に多くなっています。

問7 子育てに日常的に関わっている方（施設含む）



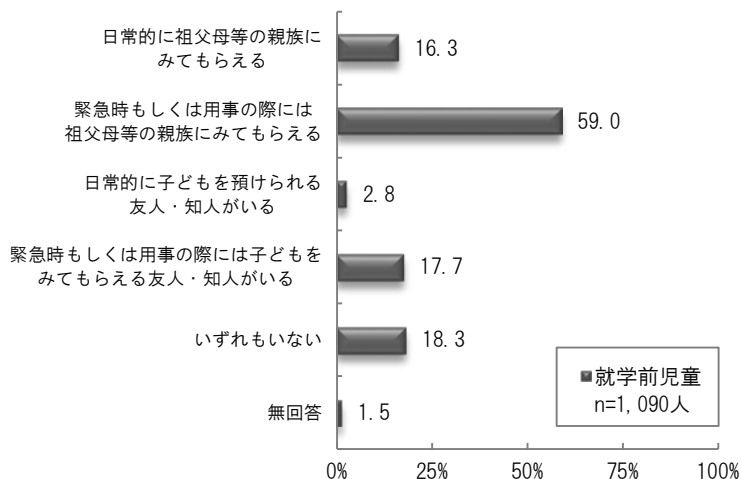
問8 子育てに影響を与える環境



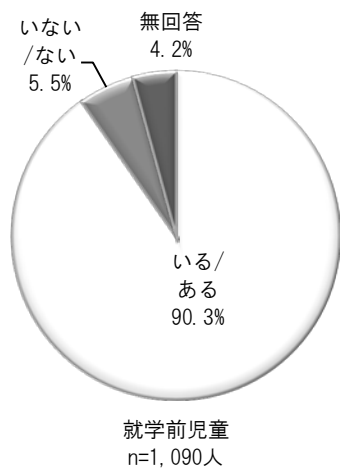
主な親族等協力者の状況を見ると、就学前児童では「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(59.0%)が最も多く、次いで「いずれもない」(18.3%)の順に多くなっています。

気軽に相談できる人の有無をみると、就学前児童では「いる／ある」(90.3%)となっています。その相談できる相手としては、「知人や友人」(80.1%)、「祖父母等の親族」(79.9%)が多くなっています。

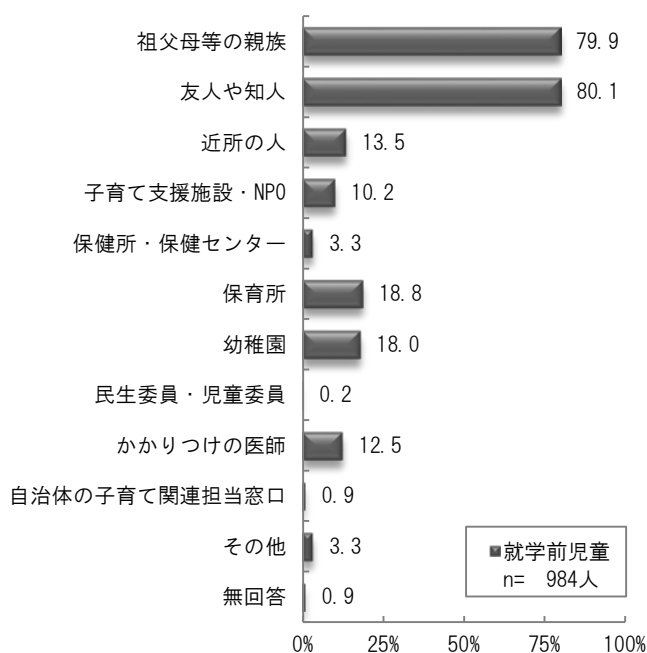
問 9 主な親族等協力者の状況



問 10 気軽に相談できる人の有無



問 10-1 気軽に相談できる相談者の状況



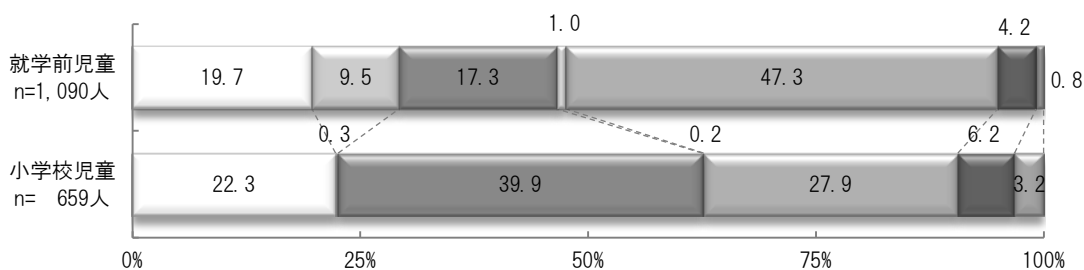
2 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

母親の就労状況をみると、就学前児童では「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(19.7%)をはじめ4割弱の方が就労し、「現在産休・育休・介護・その他休業中」の方が(9.5%)となっています。

小学校児童では「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(39.9%)をはじめ約6割の方が就労しています。

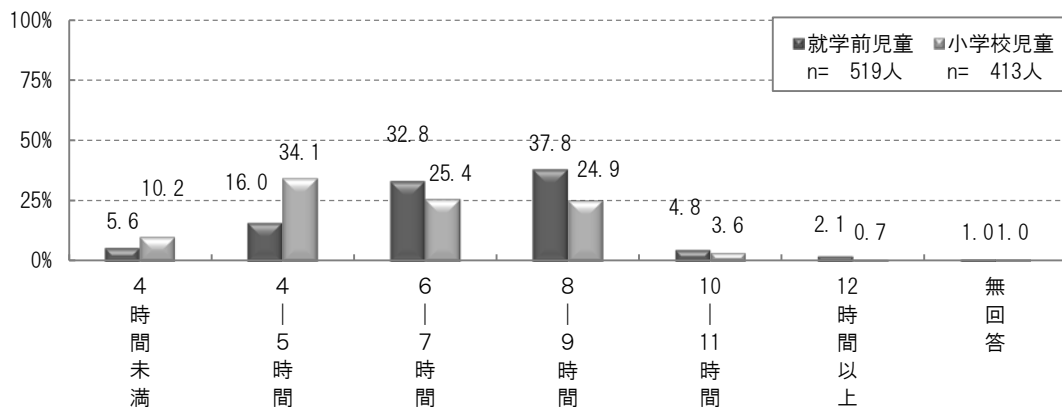
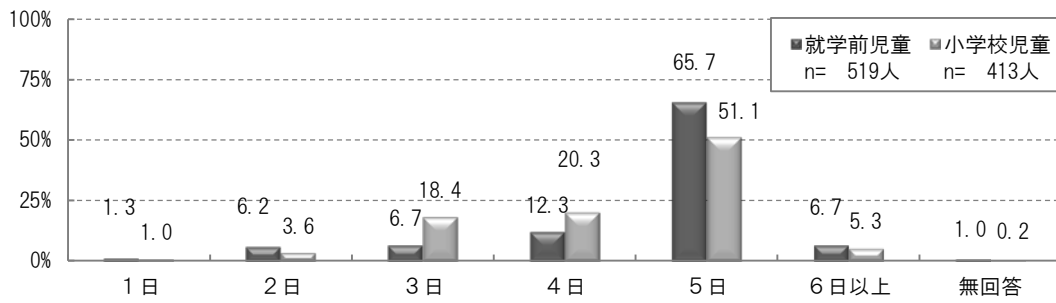
問 12(1)[問 7(1)] 母親の就労状況



- フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- 無回答

母親の就労日数・就労時間をみると、就学前児童では「5日」(65.7%)、「8-9時間」(37.8%)、小学校児童では「5日」(51.1%)、「4-5時間」(34.1%)が最も多く、両者ともに「6日以上」が約5%います。

問 12(1)-1[問 7(1)-1] 母親の就労日数・就労時間

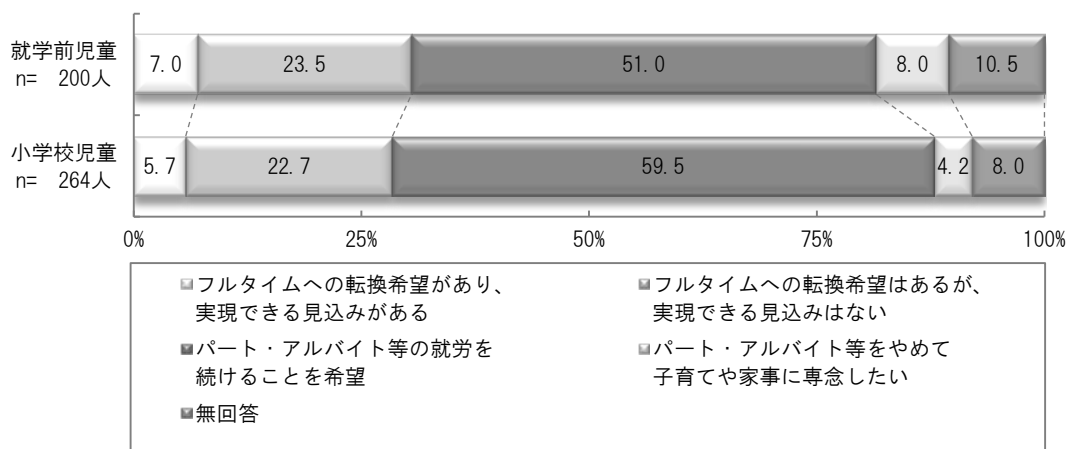


(2) 母親のフルタイム就労への転換希望

母親のパートタイムからフルタイム勤務への意向をみると、就学前児童ではフルタイム勤務を希望する方は（7.0%）（23.5%）いますが、実現できる見込みのある方は（7.0%）となっています。

一方、小学校児童でもフルタイム勤務を希望する方は（5.7%）（22.7%）いますが、実現できる見込みのある方は（5.7%）となっています。

問 13(1) [問 8(1)] 母親のパートタイムからフルタイム就労への意向

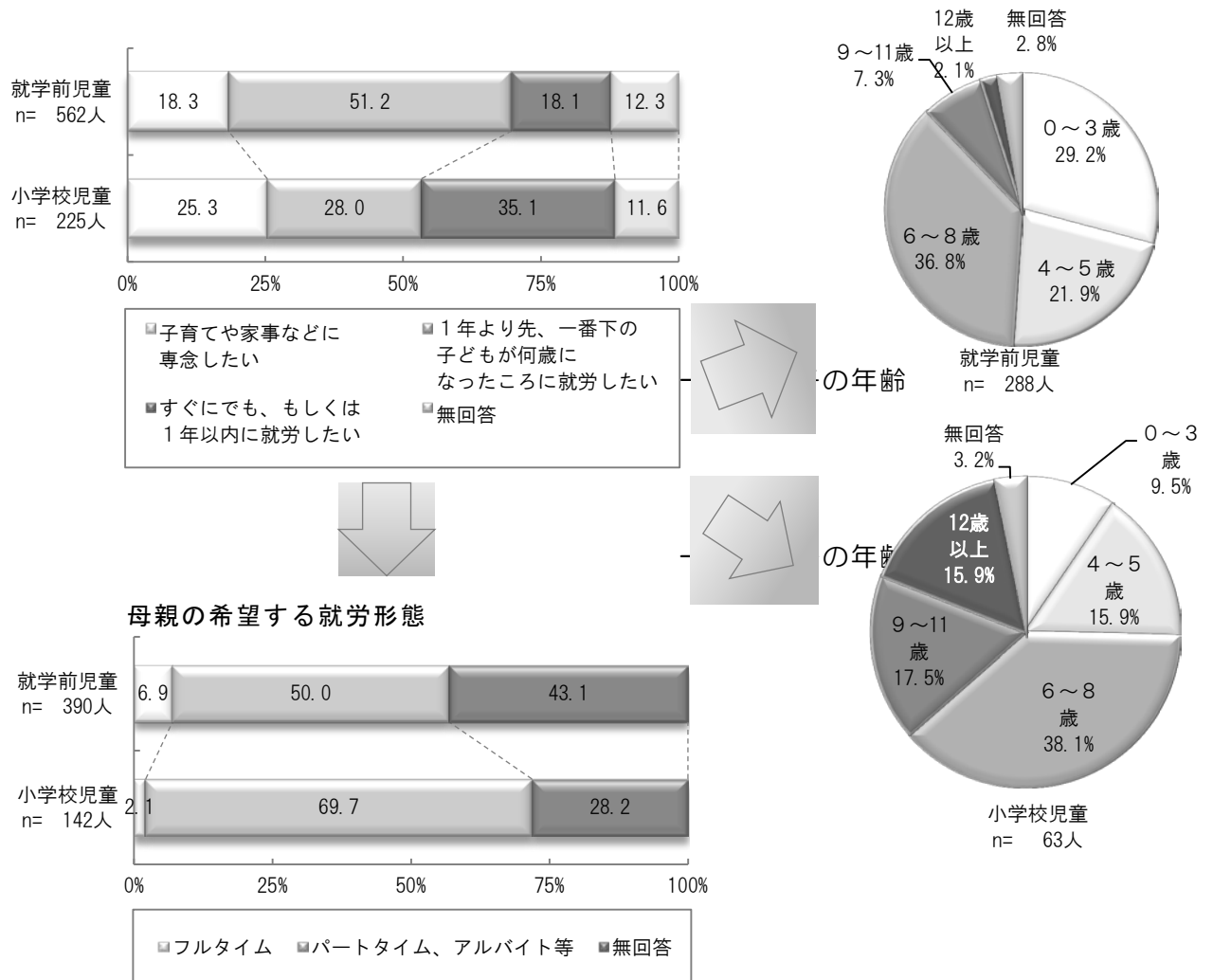


(3) 未就労の母親の就労希望

就労していない母親の今後の就労希望は、就学前児童では「1年より先、一番下の子どもが何歳になったところに就労したい」(51.2%)、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(18.1%)、就労形態は「パートタイム、アルバイト等」(50.0%)、「フルタイム」(6.9%)となっています。就労時期となる子どもの年齢としては「6~8歳」(36.8%)、「0~3歳」(29.2%)、「4~5歳」(21.9%)の順となっています。

小学校児童では「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(35.1%)、「1年より先、一番下の子どもが何歳になったところに就労したい」(28.0%)、就労形態は「パートタイム、アルバイト等」(69.7%)、「フルタイム」(2.1%)となっています。就労時期となる子どもの年齢としては「6~8歳」(38.1%)、「9~11歳」(17.5%)、「12歳以上」(15.9%)の順となっています。

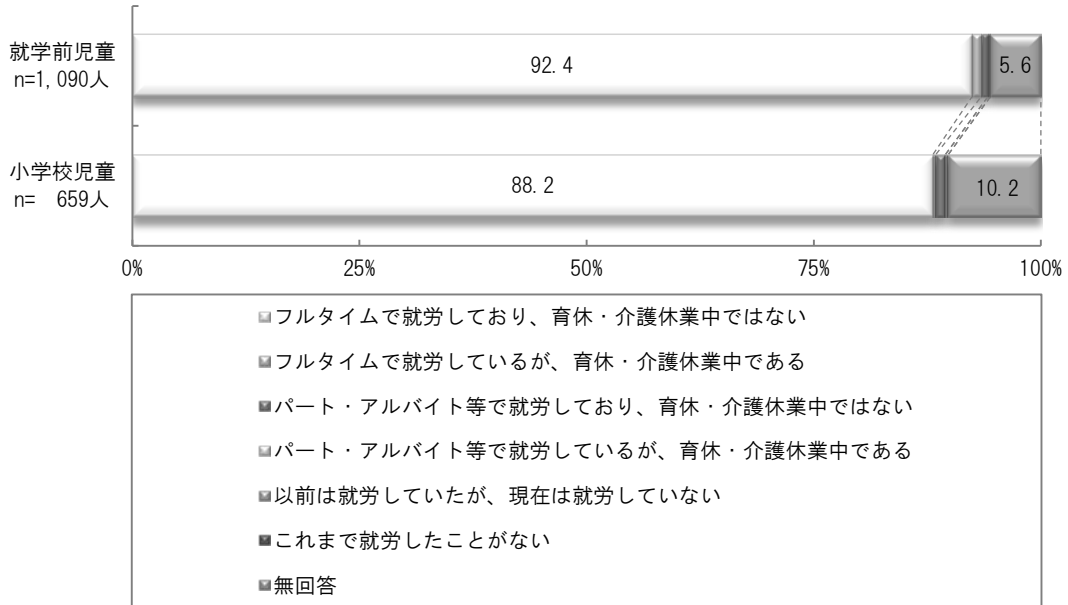
問 14(1)[問 9(1)] 就労していない母親の今後の就労希望と就労希望時の末子の年齢



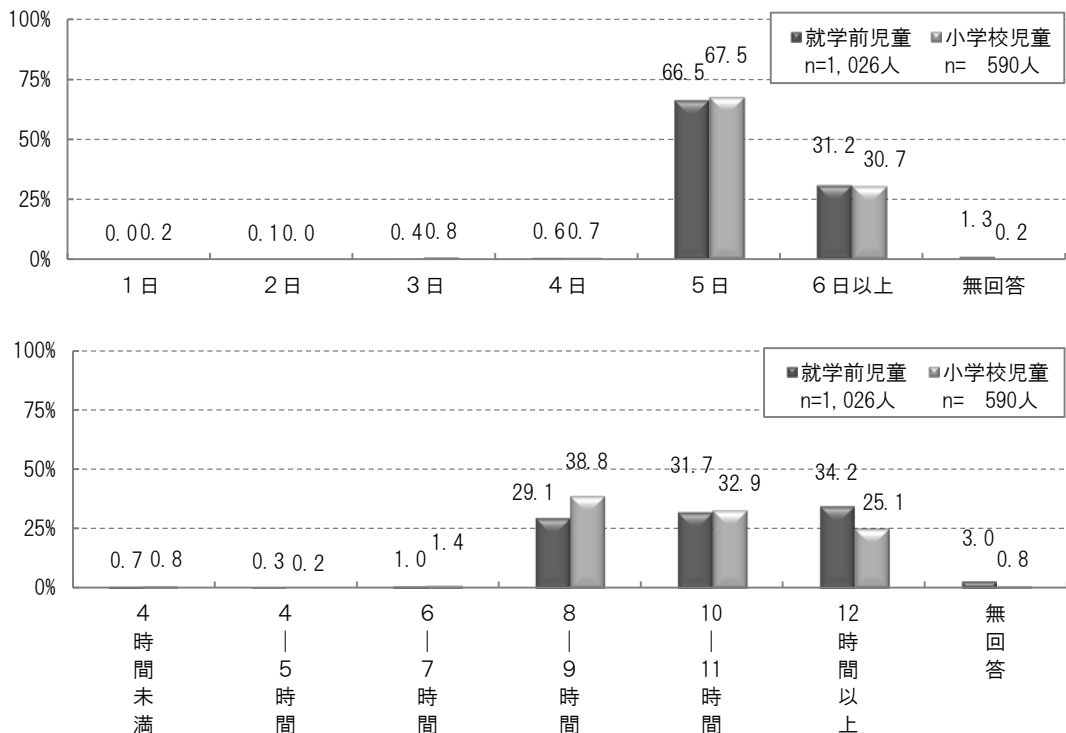
(4) 父親の就労状況

父親の就労状況をみると、就学前児童、小学校児童ともに「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」(92.4%) (88.2%) で最も多くなっています。就労日数は、「5日」が最も多く、就労時間は8～12時間以上まで3割前後となっています。

問 12(2) [問 7(2)] 父親の就労状況



問 12(2)-1 [問 7(2)-1] 父親の就労日数・就労時間



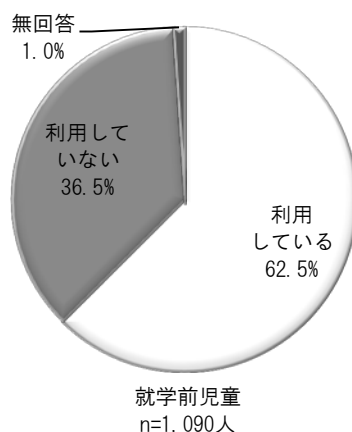
3 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

定期的な教育・保育事業（全体）の利用状況をみると、利用している就学前児童は62.5%となっています。

利用中の事業としては、「幼稚園」（32.3%）、「認可保育園」（23.7%）、「家庭保育室・ナースリールーム」（3.2%）、「その他認可外の保育施設」（1.4%）の順に多くなっています。

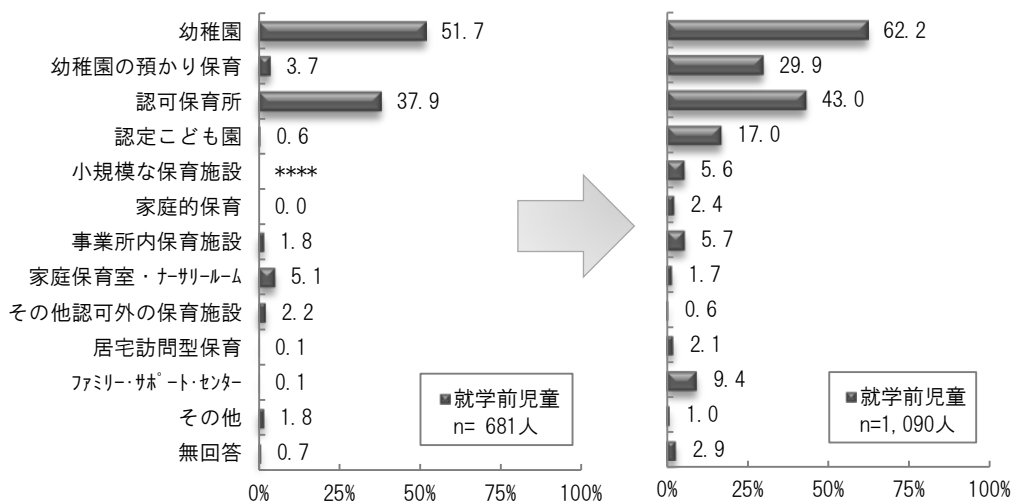
一方、今後の利用希望では「幼稚園」（62.2%）が大きく増加し、「認可保育所」（43.0%）、「幼稚園の預かり保育」（29.9%）、「ファミリー・サポート・センター」（9.4%）がともに増加しています。

問 15 定期的な教育・保育事業の利用状況



問 15-1 利用中の定期的な教育・保育事業

問 16 希望する定期的な教育・保育事業

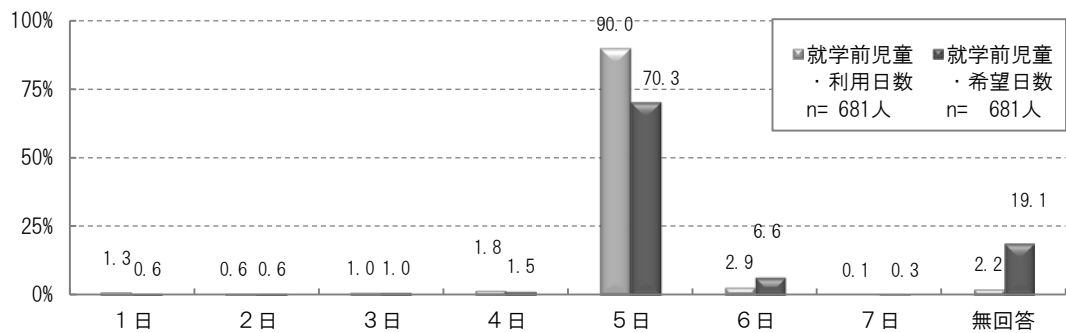




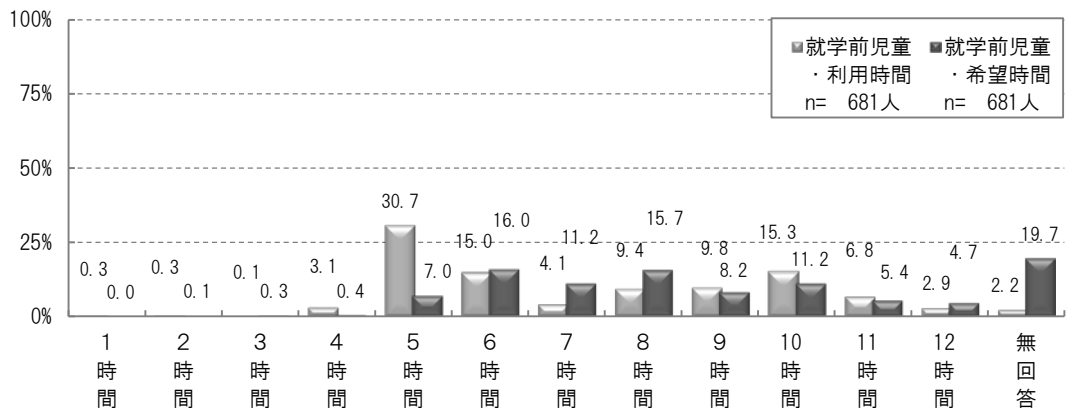
定期的な教育・保育事業（全体）の利用日数と希望日数（1週当たり）をみると、利用では「5日」（90.0%）、「6日」（2.9%）、希望では「5日」（70.3%）「6日」（6.6%）となっています。

また、利用時間と希望時間（1日当たり）について、利用では「5時間」（30.7%）、「10時間」（15.3%）、「6時間」（15.0%）、「9時間」（9.8%）の順に多く、希望では「9～11時間」がやや減少しています。

問 15-2(1) 定期的な教育園・保育事業の利用日数と希望日数（1週間当たり）



問 15-2(2) 定期的な教育・保育事業の利用時間と希望時間（1日当たり）

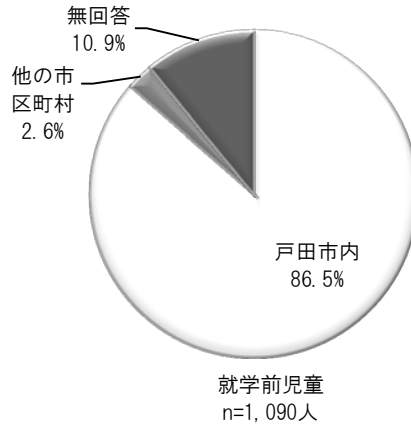
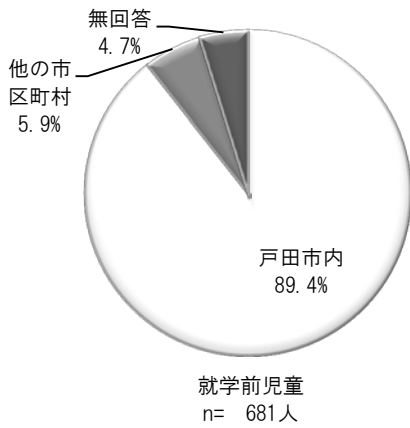




定期的な教育・保育事業（全体）の教育・保育施設の利用場所は、「戸田市内」（89.4%）と回答し、ほとんどの方が市内の施設を利用しています。
希望したい実施場所も「戸田市内」（86.5%）となっています。

問 15-3 教育・保育の実施場所

問 16-1 教育・保育の希望実施場所



4 地域子育て支援事業の利用状況と今後の利用意向

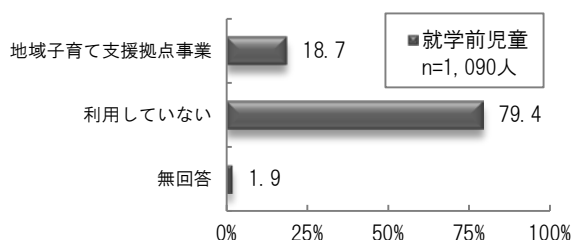
(1) 地域子育て支援拠点事業の利用について

地域子育て支援拠点事業の利用状況は、「地域子育て支援拠点事業」の利用者が18.7%、「利用していない」が79.4%となっています。

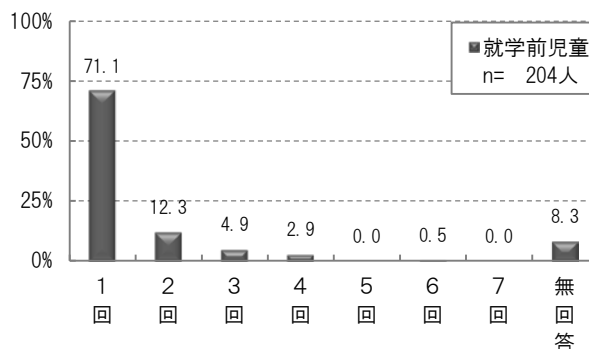
地域子育て支援拠点事業の利用回数（1週あたり）は、「1回」（71.1%）が最も多く、次いで「2回」（12.3%）、「3回」（4.9%）となっています。

未利用者は、「利用していないが今後利用したい」（28.6%）、利用者は「すでに利用しているが今後利用日数を増やしたい」（11.3%）となっています。

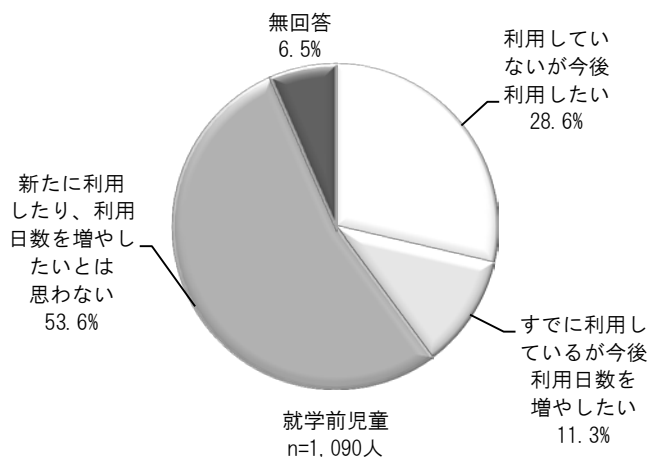
問 17 地域子育て支援拠点事業の利用状況



問 17.1.1 地域子育て支援拠点事業の利用回数（1週あたり）



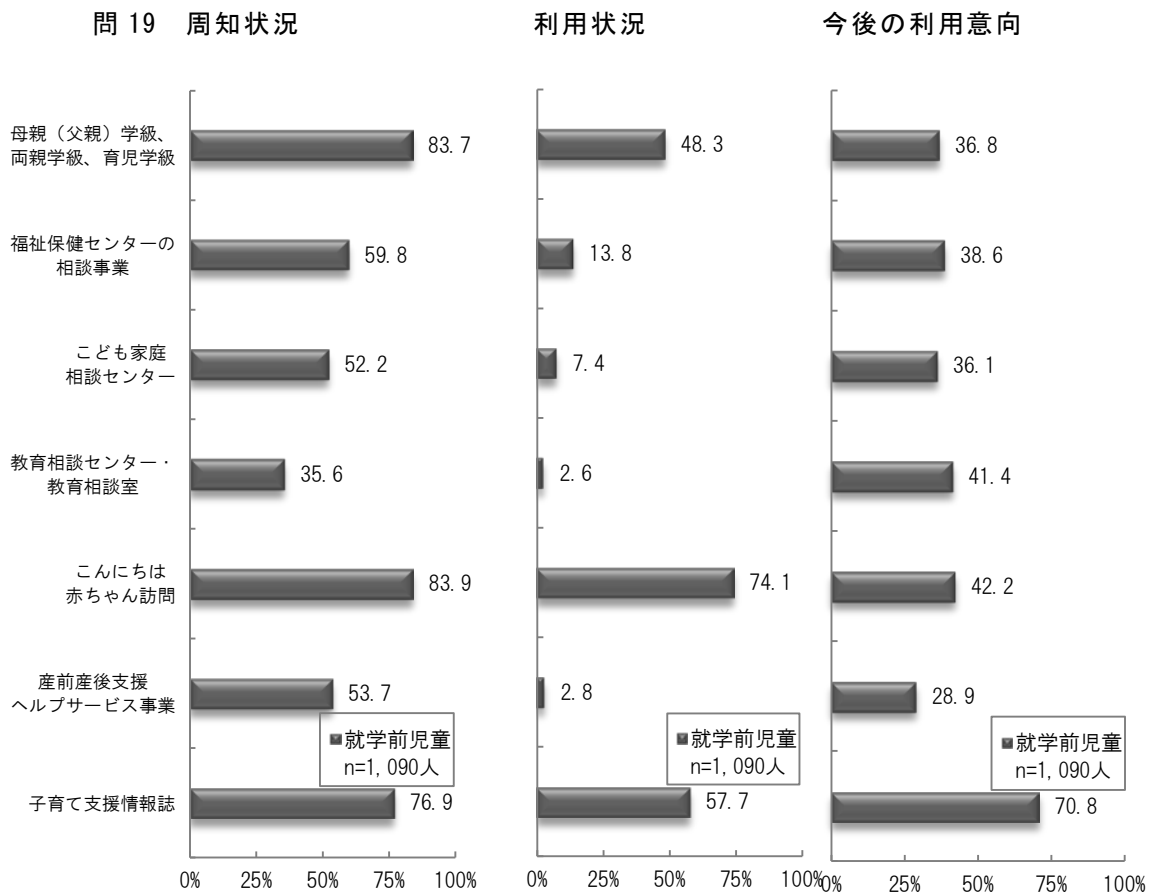
問 18 未利用者・利用者の利用及び利用回数増加希望



(2) 子育て支援事業の周知・利用状況と今後の利用意向について

子育て支援事業の周知度をみると、「こんにちは赤ちゃん訪問」(83.9%)、「母親〈父親〉学級、両親学級、育児学級」(83.7%)、「子育て支援情報誌」(76.9%)が上位を占めています。

また、今後の利用意向では「子育て支援情報誌」(70.8%)が最も多くなっています。



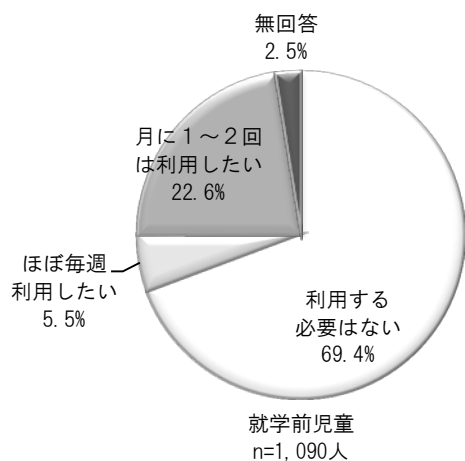
5 休日の教育・保育事業の利用意向

土曜日の利用希望は、「月に1～2回は利用したい」(22.6%)、「ほぼ毎週利用したい」(5.5%)と、28.1%の方が希望しています。

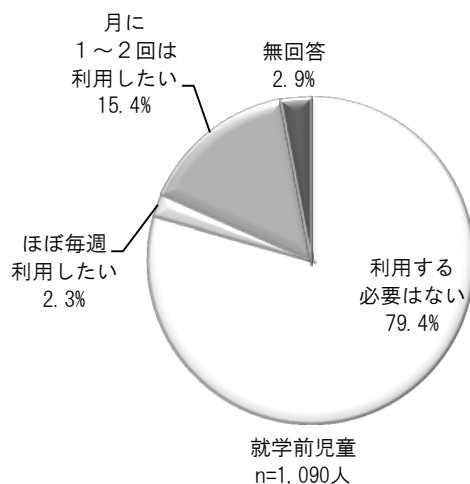
日曜・祝日の利用希望は、「月に1～2回は利用したい」(15.4%)、「ほぼ毎週利用したい」(2.3%)と、17.7%の方が希望しています。

長期休暇中において教育・保育事業の利用希望(幼稚園利用者)は、「休みの期間中、週に数日利用したい」(46.6%)、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」(7.4%)と、54.0%の方が希望しています。

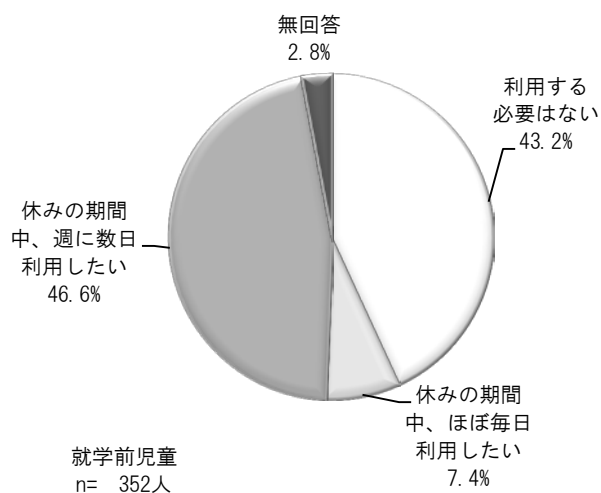
問 20 土曜日の利用希望



問 20(2) 日曜・祝日の利用希望



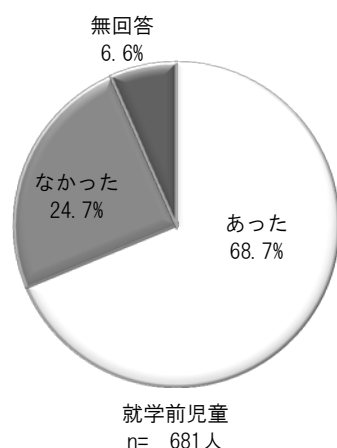
問 21 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望(幼稚園利用者)



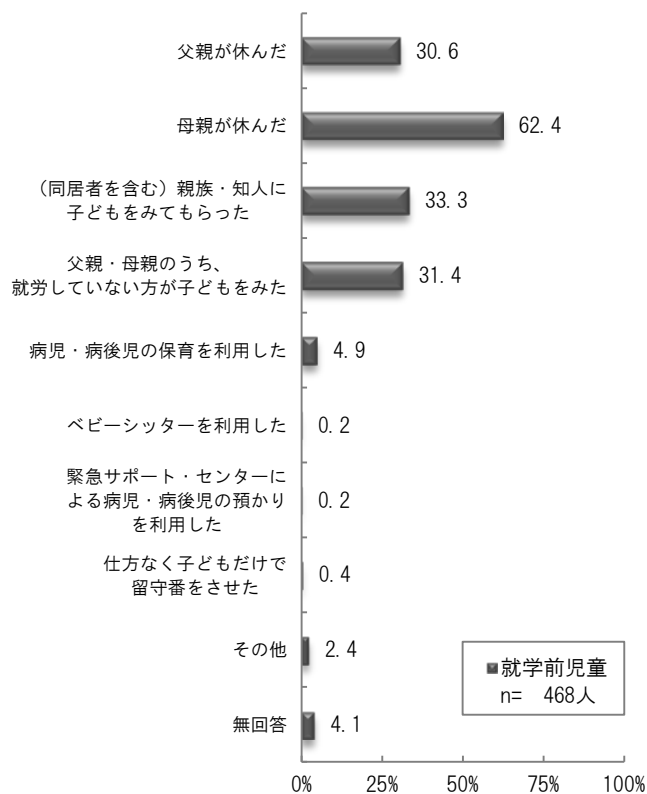
6 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

病気やケガで通常の教育・保育事業が利用できなかったことは、「あった」(68.7%)となっています。対処方法は、「母親が休んだ」(62.4%)、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」(33.3%)、「父親・母親のうち、就労していない方が子どもをみた」(31.4%)の順に多くなっています。

問 22 病気やケガで、通常の事業が利用できなかったことの有無



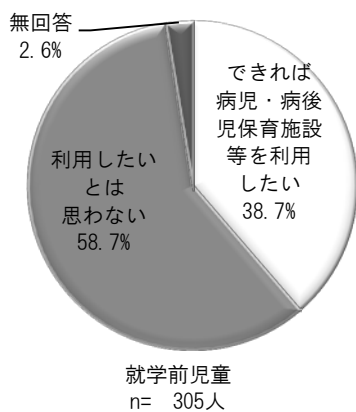
問 22-1 この1年間の対処方法



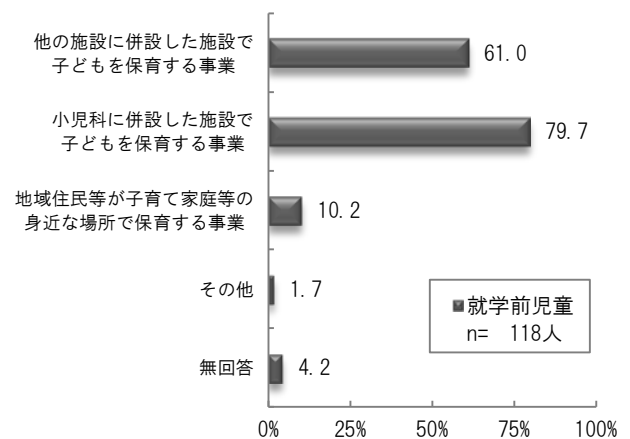
父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設の利用意向をみると、「できれば病児・病後児保育を利用したい」（38.7%）となっています。

また、子どもを預ける場合の望ましい事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」（79.7%）、「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」（61.0%）となっています。一方、利用意向のない方の理由は、「親が仕事を休んで対応する」（44.7%）、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」（41.3%）、となっています。

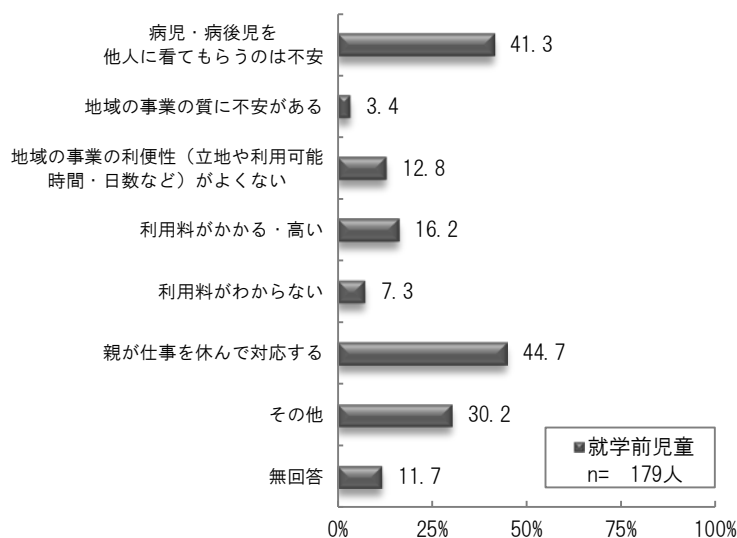
問 22-2 父親・母親が休んだ人の病児・病後児保育施設利用意向



問 22-3 子どもを預ける場合の望ましい事業形態



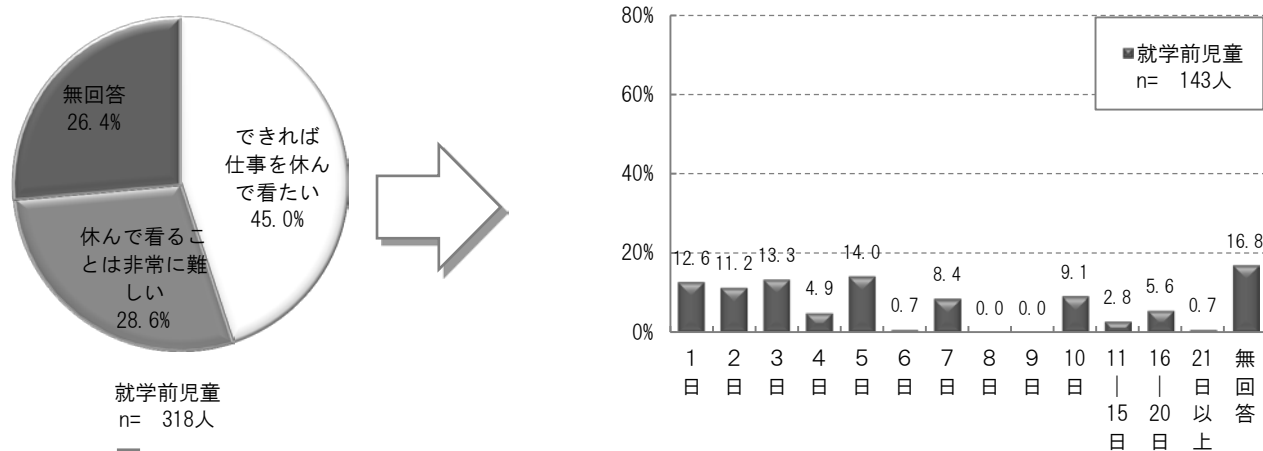
問 22-4 病児・病後児のための保育施設利用意向のない方の理由



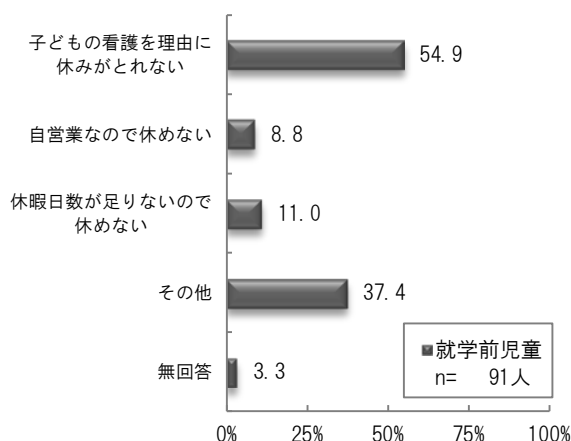
父母が休む以外の対処方法を選んだ方に対して「父母が休んで看たい」という意向をみると、45.0%の方が「できれば仕事を休んで看たい」と回答しています。一方、「仕事を休んで看することは非常に難しい」方の理由は、「子どもの看護を理由に休みが取れない」(54.9%)、「その他」(37.4%)となっています。

できれば仕事を休んで看たい希望日数は、「5日」(14.0%)、「3日」(13.3%)となっています。

問 22-5 父母が休む以外の対処方法を選んだ方の「父母が休んで看たい」意向と希望日数



問 22-6 「仕事を休んで看することは非常に難しい」の理由



<「その他」の主な理由>

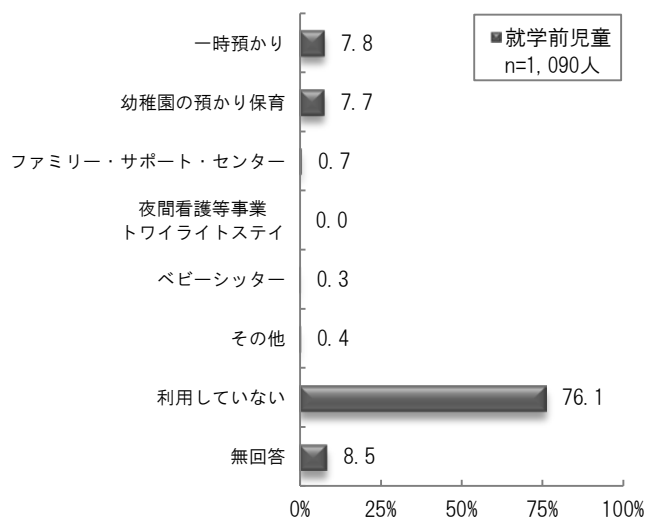
- 職場の環境・雰囲気（仕事が忙しい、理解がない、周囲や自分に負担がかかる、等）
- その他（収入減となる、他の家族を看護している、休みを何度も取ることを法で認めても場として認めていない、等）

7 不定期の一時保育の利用について

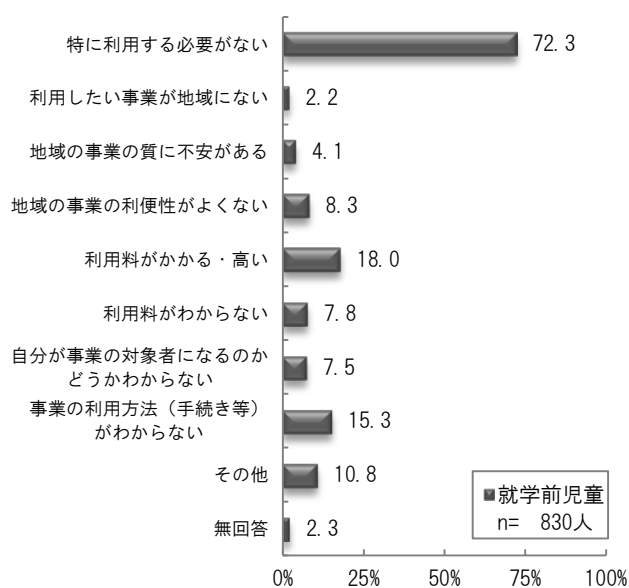
一時保育の利用状況をみると、「利用していない」(76.1%)が最も多く、「幼稚園の預かり保育」(7.7%)、「一時預かり」(7.8%)となっています。

利用していない理由は、「特に利用する必要がない」(72.3%)、「利用料がかかる・高い」(18.0%)、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」(15.3%)となっています。

問 23 一時保育事業の利用状況

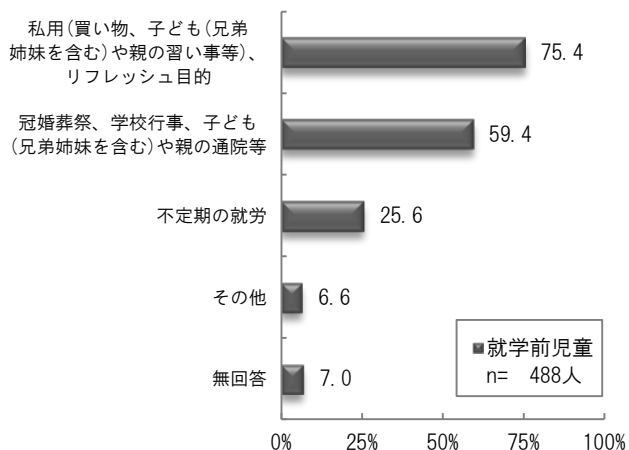
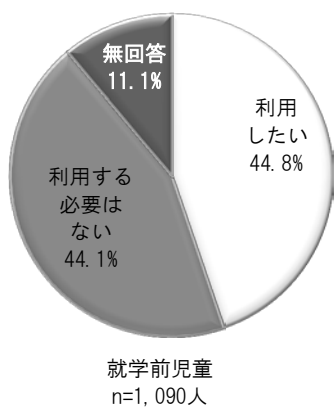


問 23-1 一時保育を利用していない理由



一時保育事業の利用希望とその目的は、「利用する必要はない」(44.1%)、「利用したい」(44.8%)となっています。利用したい方の利用目的は、「私用、リフレッシュ目的」(75.4%)、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」(59.4%)、「不定期の就労」(25.6%)となっています。

問 24 一時保育事業の利用希望とその目的



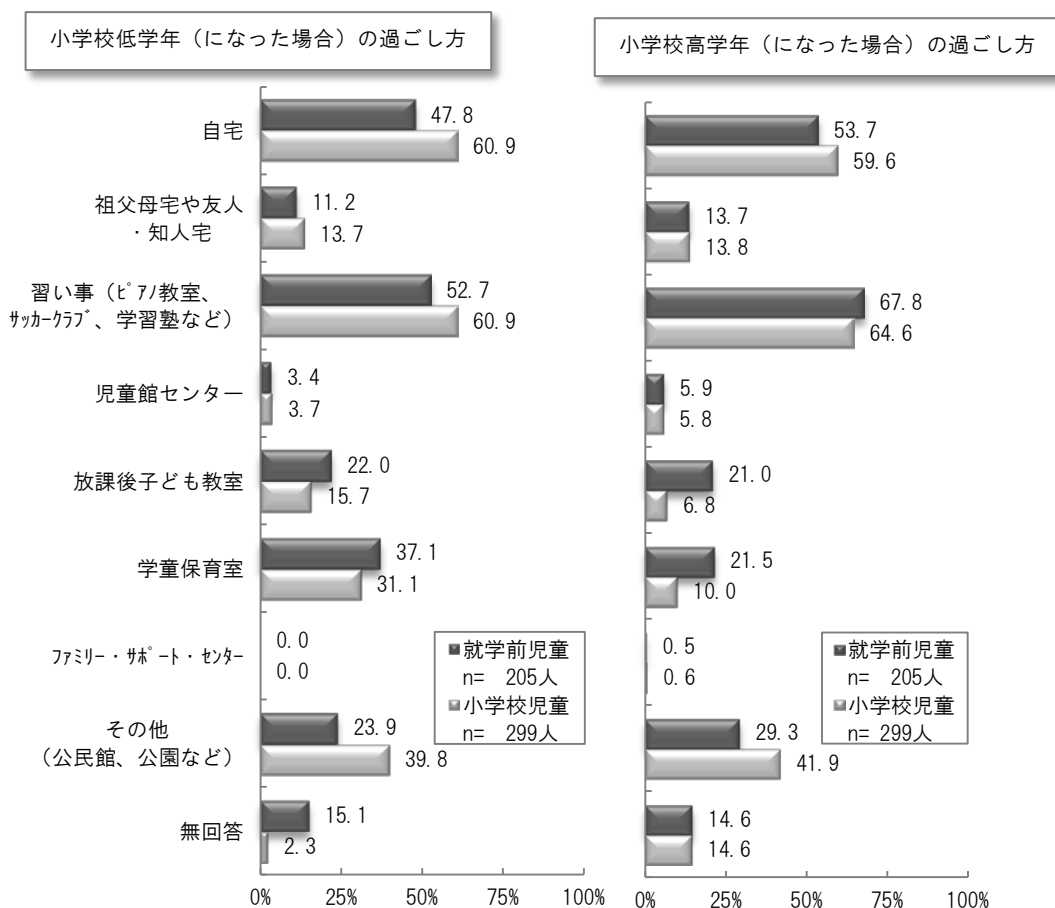
8 放課後の過ごし方について

(1) 平日の放課後の過ごし方について

放課後の過ごし方をみると、就学前児童では小学校低学年のうち「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（52.7%）、「自宅」（47.8%）、「学童保育室」（37.1%）の順に希望しています。一方、小学校低学年児の希望では、「自宅」「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（各60.9%）「その他（公民館、公園など）」（39.8%）となっています。

また、就学前児童からの希望では小学校高学年になっても「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」（67.8%）、「自宅」（53.7%）、「その他（公民館、公園など）」（29.3%）」となり、小学校低学年児の希望も同じ傾向となっています。

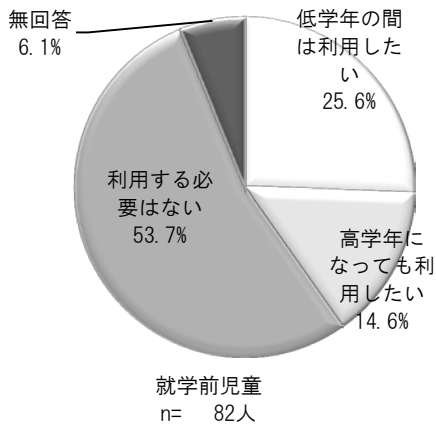
問 26・問 27[問 10・問 11] 放課後の過ごし方の希望



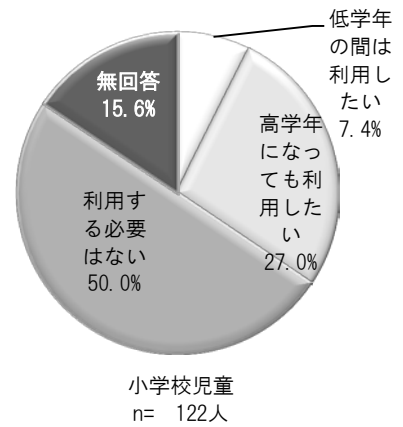
(2) 土曜・休日の放課後児童クラブ利用について

放課後児童クラブの土曜・休日の利用希望をみると、就学前児童では「低学年の間は利用したい」（土曜 25.6%・休日 11.0%）、「高学年になっても利用したい」（土曜 14.6%・休日 8.5%）、「利用する必要はない」（土曜 53.7%・休日 76.8%）となっています。一方、小学校児童では「低学年の間は利用したい」（土曜 7.4%・休日 0.8%）、「高学年になっても利用したい」（土曜 27.0%・休日 13.1%）、「利用する必要はない」（土曜 50.0%・休日 68.2%）となっており、小学校児童の希望割合が低下しています。

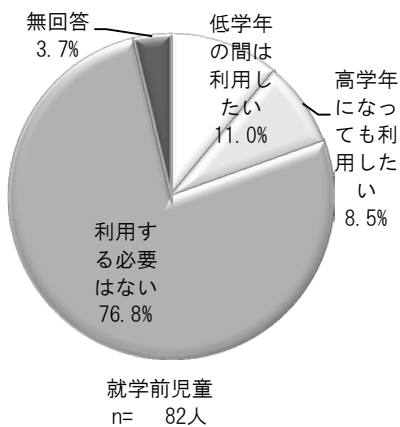
問 28(1) 土曜日の利用希望



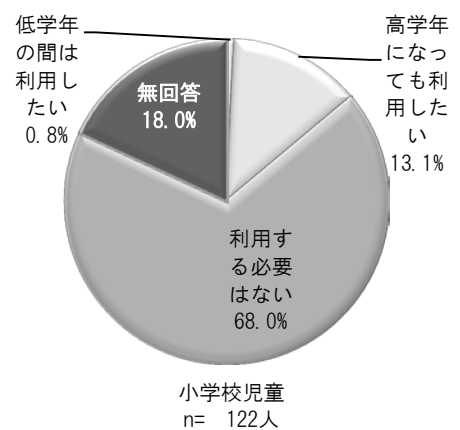
[問 12] (1) 土曜日の利用希望



問 28(2) 日曜・祝日の利用希望



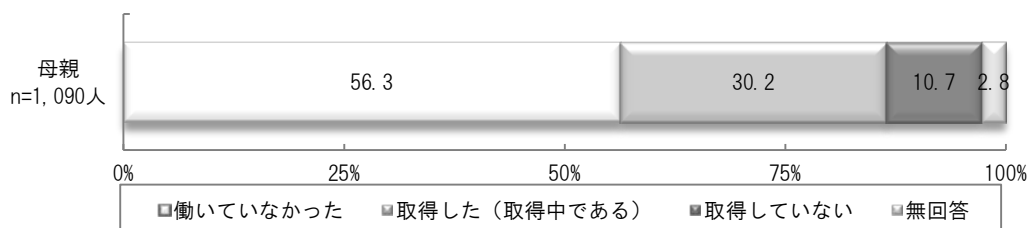
[問 12] (2) 日曜・祝日の利用希望



9 育児休業制度の利用状況

育児休業制度の利用状況をみると、母親は「働いていなかった」(56.3%)、「取得した(取得中である)」(30.2%)、「取得していない」(10.7%)となっています。

問 30 育児休業制度の利用状況



10 戸田市の子育ての環境や支援への満足度

地域の子育て支援の環境や支援に対する満足度の状況について、就学前児童では「普通」(41.3%)、「満足」と「やや満足」の計が35.7%、「やや不満」と「不満」の計が20.3%で前者が15.4ポイントと上回っています。

一方、小学校児童でも「満足」と「やや満足」の計が30.3%、「やや不満」と「不満」の計が21.7%で前者が8.6ポイント上回っています。

問 36[問 14] 地域の子育て支援の環境や支援への満足度の状況

